アサギマダラの生態学ぶ紙芝居

「旅するチョウ」成虫までの過程紹介

海を渡り、「旅するチョウ」として知られるアサギマダラの生態を紹介する紙芝居を創作講談師おとぎ亭はなさん(70)が制作した。市民グループ「高取山にアサギマダラを招こう会」が学校などでのイベントで活用する。（原ひより）



アサギマダラの標本



紙芝居を披露するおとぎ亭はなさん＝いずれも県立神戸生活創造センター

創作講談師　おとぎ亭はなさん制作

兵庫区雪御所町に住むはなさんは、長田区を中心に住民の取り組みを紙芝居で紹介する活動を続ける。アサギマダラの紙芝居は、地域のイベントで、グループ代表の環境省環境カウンセラー、橋本敏明さん(75)と出会ったのがきっかけ。チョウが海を渡ることに「ロマンと勇気を感じた」と振り返る。

今年4月に取りかかり、全14枚にまとめた。成虫になるまでの過程や、春に台湾や沖縄など南方を出発して日本列島を北上し、秋には南下して暖かい地域に戻るという生態を紹介。イラストは、人工知能（AI）を活用した。

制作に当たっては、グループが協力し、橋本さんとメンバーの石川喜朗さん(68)が助言。グループの取り組みについても盛り込まれている。

橋本さんによると、長田、須磨区境にある高取山は、アサギマダラが南下するコースにある。ただ、近年はチョウそのものの生息が減っており、山の自然とにぎわいを取り戻そうと活動しているという。

9月15日、県立神戸生活創造センターで紙芝居のお披露目会があり、はなさんが実演した。今後はグループでも活用していく予定で、メンバーに対して「幼虫がふ化するシーンはゆっくりめくる」「観客の様子を見て質問を投げかける」といったこつを教えた。

はなさんは「専門的な知識を初心者にも分かりやすく伝えられるような仕上がりになった」と笑顔。橋本さんは「紙芝居を通して、子どもたちに自然の大切さについて考えてもらいたい」と話す。